

明日に向かって

ともに創る

65

大船渡市長 戸田公明

水産資源管理の動向にみんなで留意しよう

大船渡市魚市場への震災前14年間の水揚げ量の年度平均は約4・8万トン強でした。震災直後は3万トンまで落ち込みましたが、平成26年度には約5・3万トンまで回復しました。ところが、27年度4・2万トン、28年度3・6万トンと大きく減少してきています。このため、漁業者・魚市場・買受人はもとより、小売・水産加工業界では販売鮮魚と加工原魚の確保に厳しい状態が続いています。

水揚げ量が減少してきた理由は、よく分からない面がありますが、海の環境変化、海水の温暖化による魚種の変化、黒潮の蛇行の影響による寒流系魚種の沖合回遊、日本の排他的経済水域外の公海上における他国の漁獲高の激増などが言われています。

しかしながら、その分野の専門家・水産庁情報などを見る限りでは、水産資源の管理不足が主な要因であるとされています。

ちなみに大船渡市魚市場における主要魚種の10年前と昨年の水揚げ量を比較すると、サンマ・サケ・イカ・サバ・イサダ・カツオなどは、年毎に増減はありますが、1割から9割方減少する一方で、ブリ・サワラのように、増加している魚種も見られます。このような水揚げの約4割が漁業協同組合などによる定置網、

3/4が沖合漁業などによる漁船漁業によるものです。

震災から漁業・水産加工業ともほぼ復旧・復興した今日ですが、仮にこのような傾向が続くと、漁業・水産業を基幹産業とする本市にとっても、三陸沿岸のまちにとっても大変由々しいことです。現状を打破し地方創生につなげていくためにも、国による科学的で合

理的な水産資源管理をより一層強化し水産資源を増加させ、漁業・水産業の業績向上・所得向上につなげていくことが極めて重要で

平成27年の広報大船渡11月号と12月号で、水産資源管理について触れた際に、「市は三陸沿岸都市会議・岩手県市長会を通じて平成25年度から国に水産資源管理を要望したところ、国は平成26年度より水産資源管理に舵を切った」と報告しました。

以来、新聞報道・水産庁ホームページなどによりますます、本格的な資源管理が少しずつ動き始めた観があります。

そのような中、平成29年4月に策定された国の水産基本計画では本格的な資源管理の方向性が打ち出されました。先日、岩手県市長会・三陸沿岸都市会議を通じて山本農林水産大臣にお会いし、水産資源管理を一層推進していただくよう要望してまいりました。

今後とも、国の水産資源管理の動向と実際の水産資源の状況を注視してまいりましょう。

碁石海岸ラベンダー摘み取り会 & 土井尻明子ミニコンサート



土井尻明子さん

ラベンダーのさわやかな香りに触れるとともに、オペラ歌手である土井尻明子さんの美しい歌声を聴いて、日頃の疲れを忘れ、心身を開放してみませんか。

- 碁石海岸ラベンダー摘み取り会
- ▷期日＝7月9日(日)
- ▷時間＝午前10時～正午
- ▷会場＝末崎町字中森地内のラベンダー畑(ホテル碁石入口付近)
- ▷参加料＝無料
- ▷持参するもの＝刈り取りバサミ、摘み取った花を入れるもの

- 土井尻明子ミニコンサート
- ▷期日＝7月9日(日)
- ▷時間＝午後1時30分～2時
- ▷会場＝世界の椿館・碁石 屋外ふれあい広場 ※雨天時は、館内の交流広場で行います。
- ▷参加料＝無料
- 共通事項
- ▷その他＝車で来場する人は、碁石海岸大駐車場または碁石海岸キャンプ場駐車場をご利用ください。
- ▷問い合わせ先 農林課農政係(☎内線7124)